

Peaceful Place

武居理恵（タケスエリエ）

飛行機でマニラから約2時間、初めての1人旅で緊張しながら空港に着くと SCM の校長ガンダムさんが私を出迎えてくれました。そこから車で約2時間、そこにチボリ族は住んでいます。私はフィリピン大学に留学しており、マニラとは真反対の新鮮な空気、美しい湖、たくさんの緑・自然に大感動。本当にジブリの舞台にすればいいのに…と思うような素晴らしい場所でした。



私が今回行った目的は私の母校である山口県立華陵高校がずっと里親として支援し続けているフローディレンちゃんという女の子に会うためです。丁度その彼女が通っている SCM の創立祭が2日間に渡って行われており、チボリの伝統的な舞踊、楽器演奏、カラオケ大会などを見せてもらいました。男子達のバク転のレベルに驚き、やっぱりフィリピン人はみんなダンスが上手だなーとか、朝から夕方までお祭りでしたが全然飽きませんでした。1つ驚いたことはマニラの子供達と違って外国人に慣れていないのかシャイな子が多く、カメラを向けても逃げられちゃうこともありました。笑

フローディレンちゃんは14歳。英語もきちんと話せて、彼女の両親と話すときは通訳してくれました。行く前は私が行くことで今支援している高校生にとって彼女がもっと身近な存在になれば良いなという想いで行ったのですが、実際に行って支援ということを改めて考えさせられました。というのも、私は時々マニラのゴミ山近くのフリースクールに通っていて、どうしてもそこと比べてしまい、本当にここにはもっと支援が必要なのかなど思ってしまいました。確かにこれまでは支援があったからこのような立派な学校になったと思います。日本人が寄付した校舎や図書館の本もを見せてもらいました。校長先生曰く今はスポンサーが減っており新たな支援者を探しているとの事でした。しかし、いつまで外国の支援に頼っていいのか考えてしまいます。卒業生からの寄付などは可能か、チボリが持っている素敵な部分を活かして観光をもっと活性化するなどして学校運営を自立できないか。また、私たちに出来ることは学校の運営自体を自立させるための支援なのではないかと考えさせられました。

フローディレンちゃんは将来理科の先生になりたいそうで、その為にはチボリが住んでいるところから離れた大学に行かなければなりません。現状ではチボリの子達が大学に進学するためには支援がなければ厳しいそうです。私も奨学金を借りることで大学に行っており、こういう制度がなければ通えていないので、チボリの子達が勉強したいのに経済的問題で進学出来ない等の問題が起こるのは悲しいです。経済格差による教育格差、そして貧困の連鎖を断ち切る取り組みはすごく大切だと思います。

今回初めて訪れて、とにかくチボリ族が住んでいる場所の美しさを皆にも知ってほしいと思いました。



現在、サンボアングなど一部の地域は危険ですが、同じミンダナオというだけでマニラに住むフィリピン人にとっても同じ対象として見られています。もちろん何事も用心は大事ですが、ミンダナオにもこんな素敵な場所があるんだよと少しでも伝えていけたらなと思います。

これがお世話になったチボリの方への私なりの恩返しの方法かもしれません。健気な子供たちの笑顔がこれからも続きますように…。